

関西テレビ

News ランナー「兵動大樹の今昔さんぽ」

『奈良市・赤膚焼きの歴史再発見』

放送：令和8年（2026）2月27日

本番組では、昔の写真を手がかりに、同じ場所を訪ね歩き写真を撮り歴史を掘り起こします。今回は昭和36年（1961）に撮影された右の写真。調査は近鉄郡山駅から始まります。窓際でろくろ轆轤を回して作業をしていることをヒントに赤膚焼の工房を訪れます。



赤膚焼は、豊臣秀長が常滑から陶工を招いたことで栄えたとも言われ、奈良市五条山一帯や郡山市に窯元が点在する。写真に見える南向きの採光窓は、昔の窯元の典型的な造りで、現在も奈良市赤膚町の大塩家に残る。九代目窯元によれば、赤膚焼の本質は地元の赤土を使うことにあり、鉄分を含む土は甘みを感じるほど良質という。土を水で溶かしザルで小石を取除き水気を飛ばし粘土を作る。150年前から続く登り窯では火力の強い赤松を燃料に使う。薪割から修行が始まる。赤膚焼は乳白色に赤味を帯びた素地と奈良絵文様が特徴の奈良を代表する伝統工芸である。

写真は八代目が作業する姿で、現代の十代目の姿（下の写真）と重なり、技と精神が脈々と受け継がれていることを物語る。

6:53 news ランナー

豊臣秀長ゆかり「赤膚焼」職人の背中

兵動大樹の今昔さんぽ 奈良市の歴史再発見

提供：岡田庄三氏（奈良県立図書館蔵：奈良の今昔写真WEB蔵）



1961年（昭和36年）

八代目



2026年（令和8年）

十代目